

(論文)

医学教育における人類学のあり方に関する教科教育学的研究

文学部と医学部における授業実践の比較から

How does Anthropology Play the Role in Medical Education?

濱 雄亮

飯田淳子

木村周平

堀口佐知子

照山絢子

Yusuke Hama

Junko Iida

Shuheki Kimura

Horoguchi Sachiko

Junko Teruyama

小曾根早知子

金子惇

後藤亮平

春田淳志

宮地純一郎

Sachiko Ozone

Makoto Kaneko

Ryohei Goto

Jjunji Haruta

Junichiro Miyachi

要旨

本稿では、新型コロナウイルス感染症に対応する総合診療医の姿やそれを描くための方法論に関する論文を読むことを課した学生（医学部・文学部）の反応を紹介・整理した。医学生に固有の反応は、問題解決を全部自分（医師）がやろうと気負うこと、医師による SNS での情報収集への違和感の表明の強さなどである。ここから、医学生向けの人類学の授業においては、「情報の翻訳」の場面をエスノグラフィックに提示することと医師が多職種・他領域と連携している姿や場合によっては当惑している姿をエスノグラフィックに提示すること、これらが有益であることが示唆された。エスノグラフィや人類学の論文を教材とする意義は、人の生の多面性などについて具体例に基づいて議論できることであることも示唆された。課題は国際比較や人類学者側の準備の推進である。

キーワード 新型コロナウイルス感染症、文化人類学教育論、医学教育（学）、教科教育学